令和６年度
港南区連合町内会長連絡協議会・港南区協働による地域づくり推進協議会
合同意見交換会　開催報告

日　時	令和６年 12 月 18 日（水）15時30 分から 17時00 分まで
場　所	港南区役所６階　６０１・６０２会議室
出席者	荻久保（源）会長（上大岡）、横川会長（大久保最戸）、 荻久保（頼）会長（笹下・区社協）、田口会長（日下）、田代会長（日野）、 小後摩会長（日野第一）、川島会長（港南台）、高橋会長（永野）、 黒田会長（野庭団地）、黒川会長（野庭住宅）、○●古屋会長（下永谷・区連会）、 若林会長（永谷・区社協地区社協分科会）、飯島会長（芹が谷）、 宮島会長（ひぎり）、上田会長（日野南） 黒川会長（民生）、石川会長（保活）、小室会長（スポ推）、穂永会長（青指）、 齊藤代表（消費）、岩崎会長（環境）、武馬会長（シルバー）、 小松会長（ヘルスメイト）、稲村会長（工業会）、大木会長（保護司会）、栗原区長
	○港南区連合町内会長連絡協議会　会長 ●港南区協働による地域づくり推進協議会　会長

【協働による地域づくり推進協議会（協議会）の概要】
　区内の地域活動者や団体が、自治会町内会など身近な地域の中で連携できる関係を築き、地域での活動をより一層進めていくために、区内で活動する各団体の代表者と区役所が一緒に話し合い、情報を交換する場として、平成 26 年度から設置しています。
　令和５年度より、区連会と合同で意見交換会を開催しています。

◆ 開会あいさつ　古屋会長

　今年は１月１日に能登半島地震が起き、防災に対する意識がより高まったのではないでしょうか。災害は突然起こるものですが、いざというときに協力し合える関係づくりが「協働による地域づくり」の根幹でもあります。
　皆さんと「横のつながり」を強め、協働による地域づくりを進めていきましょう。

◆ 意見交換

地域の重要な課題である「防災」を切り口に意見交換を行いました。

最初に、能登半島地震の被災体験の動画を視聴した後、４グループに分かれて、動画を見ての感想や、発災時に備えて地域でできること等について、意見交換しました。

【視聴した動画】

石川県志賀町に帰省していた「news every.」（日本テレビの報道番組）のディレクターが能登半島地震で被災。自らも被災者として避難所を手伝いながら、撮影した震度７の町の１週間の記録。

https://www.youtube.com/watch?v=LdyxfAXq8U0

主な意見　※事務局で類似のご意見を整理して、まとめて記載しています。

■動画を見ての感想

◎各自の備えの大切さ

・発災時は水や、動画にはなかったがトイレの問題が大きい。震災直後は交通が遮断され、水や食料、物資はすぐには来ない。下水道が破損すればハマッコトイレも使えない。各自の備えが重要。

◎顔の見える関係づくりの大切さ

・「意外と明るかった」というのが視聴した感想。地方では皆顔見知りで、普段のコミュニティが生かせると思うが、横浜では難しいのではないか。
・災害直後は行政も十分に機能しなくなる。行政に頼るのではなく、自分たちでできることをやり、地域で助け合うことが必要。総じて、普段からの活動、顔の見える関係性づくりが、いざという時に生きてくる。
・動画は７日目までの記録だが、その後の数か月が本当の戦いであると感じた。復興までには長い時間がかかる。

■今後やりたいこと、やれると良いこと

◎地域防災拠点の役割や訓練について

・「地域防災拠点に行けば食料や物資があり、行けば何とかなる」という誤った認識を持った方も多い。在宅避難が基本であることや、地域防災拠点の正しい役割を認識してもらう必要がある。
・避難者はお客さんではなく、一緒に避難所運営に関わってもらう必要があることを理解してもらうためにも、日頃の訓練に参加してもらうことが大事。
・拠点訓練への要援護者の参加やペット防災、地震だけでなく風水害に備えた訓練な

ど、色々な訓練ができると良い。
・防災をきっかけに自治会町内会加入への勧誘につなげられると良い。
・災害時に活かせる活動を普段から行っているということを切り口に、自分たちの活動を知ってもらう機会にしたい。
・12 月に開始した港南区災害時協力事業所登録制度「こうなん災害時協働隊」は良い取組。ぜひ拠点訓練等の機会を捉え、地域で登録企業からＰＲして欲しい。

◎在宅避難者、要援護者の支援
・地域防災拠点に来れる人は元気な人だが、本当に手を差し伸べるべき人は他にいる。
・在宅避難の人に、どう物資が情報を届けるかが課題。誰が在宅で避難しているかの把握と安否確認が重要になる。
・一人暮らし高齢者や障害のある人など、要援護者の安否確認は、民生委員と自治会町内会が連携して、普段の見守りの延長線上でできるとよい。手上げ方式で要援護者の把握をしている自治会町内会もあるが、全体で見ると温度差がある。
・在宅避難者の安否確認では、班長や組長などの役割が大きくなる。普段の回覧板が大切だと思う。
・障害のある人の中には、防災拠点で大声を発してしまうこともある。家で過ごそうにも家族だけでは支えられない。そういう人もいることを知ってもらいたい。

■困っていること、苦労していること
・地域内にいっとき避難場所として適当な場所がない、地域の高齢化率がとても高い、等、地域により様々な課題がある。
・地域の役員のなり手がなく一年交代にしているが、拠点訓練でベテランがいない。経験値が詰まれず、いざという時に機能するか心配。一方で役員の一年交代は、多くの人が最低限のことを知っており、ある意味薄く顔が広がる効果がある。
・拠点が決められた地区以外の人も受け入れるのか（横浜市では来た人は全員受け入れる）、拠点に届く物資や情報を、住民へどのように届けるべきか、在宅避難の要援護者はどうなるのかなど、自分達もすべてを理解していない。

■地域・各団体の取組紹介
・連合内に複数の地域防災拠点があるため、連合で防災拠点の連絡会を開いて情報交換をしている。互いに他の拠点の状況がわかって良い。
・小中学校と連携して訓練を実施すると、親子で訓練に参加したり、中学生がトイレの

組み立てなど、運営に関わってくれたりするので、とても良い。
- 在宅避難者の安否確認訓練結果を掲示板に掲出している。自治会未加入者にも知らせる機会になっている。
- 自治会内で班長と民生委員が年１回、防災グッズなどを持って、ひとり暮らし高齢者を訪問している。
- 拠点訓練に若い人の参加は難しいが、「水」を切り口に訓練を組み立てて、広報したら、若い世代が参加してくれた。
- 東日本大震災の時に、京急がとまり、笹釜道路には金沢方面に帰宅する人の行列ができた。その経験を踏まえて、拠点訓練時に帰宅困難者の受付テントを用意した。
- ＨＵＧ（避難所運営ゲーム）訓練をやってみて、様々な想定があるが実際に起こり得ると思った。
- 避難所に障害者の方が来た時にどう対応したらよいかということを勉強する機会を予定している。
- 民生委員は日頃の活動で地域とのつながりを持つことを大切としてきたが、能登の震災を踏まえて、発災後、どのような活動をするのか検討を始めた。とは言え、大切なのは日頃の連携。
- 保活としてはイベントを開催して、日頃から人と人とのつながりを広めていきたい。
- 「こうなん災害時協力隊」は工業会の出番が来たと思っている。多くの会員が協力するだけでなく、工業会以外にも広めていきたい。企業として地域の役に立てることがすばらしい。
- 在宅避難時の災害食をすぐには作れないという方が多いと思うが、ヘルスメイトはその作り方を伝えている。今後、防災拠点においても力が発揮できるように、災害食の研修を重ね、地域に広めていって役に立ちたい。
- スポ推は区で 150 人の組織。大きな事業をやるよりも、各地区で「いいね」という小さなことに積極的に取り組んでいる。そうすることで、災害時にも助け合いができるのではないかと感じている。

◆ まとめ　栗原区長

今日お集まりいただいた委員の皆様は、いざ災害が起きた際に、地域でリーダーとなる方々です。実際の被災動画を見ていただき、リアリティを持って、活発に意見交換していただいたことに感謝申し上げます。防災の議論には結論が出るものではありませんが、今後もこのような意見交換の機会を設けていくので、ご協力お願いします。

当 日 の 様 子

グループ１

グループ２

グループ３

グループ４